

今回は二人の例をあげましたが、「もう一人の自分」を育てた人は、世の中にたくさんいると思います。君たちの中にも、既に「もう一人の自分」を存在させている人がいるかもしれません。

人は誰も「良い心」と「悪い心」の両面をもっているものです。「悪い心」が「良い心」を乗り越えないように、常にもう一人の自分が自分に問いかけ、正しい判断、正しい行動へと導いてくれるのです。だから、世界が平和で多くの人が幸せを感じながら生活していけるのです。

自分で自分に問いかけることを「自問自答」といいます。聞いたことがあるでしょうか？また、「悪魔のささやき・天使のささやき」と表現する人もいます。難しい表現では「心の葛藤（かつとう）」と言います。



宿題をしている時によく「天使と悪魔」が会話しませんか？「悪魔のささやき」と「天使のささやき」のどちらを多く聞きますか？宿題ができない理由の多くは「今は、時間がない」とか「みんな、してないよ」とか、そんな言い訳をして正当化している自分自身がいますよね。これは「悪魔のささやき」というもので、特に日本人が弱い殺し文句が「大丈夫だよ、お前だけではない。みんなそうだよ」です。そのささやきに自分を納得させることになるのです。しかし、宿題等をやりきる人には「天使のささやき」が聞こえてきます。「今やらなければどうする。それをなし得ることが将来のお前にとって大切なんだ」と。そして、その言葉に奮起するのです。

このように、大切なことは自分の心に「もう一人の自分」を育てることです。「もう一人の自分」は、自分がこうしたいと思った時に「そんなことしていいのかわかるか」とか、逆に「こんなことしたくないなあ」と思った時、「本当にそれをしなくていいのかわかるか」と問いかけてくる心の中の人物です。ある時は、自分の欲望に負けそうになったり、自分が暴走しそうになったりした時に、ブレーキをかけてくれる存在であり、またある時は、怠けそうになったり、落ち込んでどうしたらよいか困っている時に、そっと背中を押して「頑張れ」と勇気づけてくれる存在かもしれません。そして、自分の良き相談相手であり、応援者（サポーター）であり、また厳しく注意してくれる人でもあります。そんな「もう一人の自分」を皆さん一人一人がもつことができたら、きっと幸せな人生へと導いてくれるはずですよ。日記形式にしてもいいですし、「もう一人の自分」に名前をつけるのもいいでしょう。自分の好きなアイドル・歌手・映画スターなど何でもよいと思います。幸せになるため、この冬休みに試験的に「もう一人の自分」と話をするようにしてみてください。

では、3学期始業式には、全員元気な姿で会いましょう。よいお年をお迎えください。

☆酉年から成年へバトンタッチ  
2018戊(いぬ)年<戊戌(つちのえいぬ)>の運氣や兆候



戊戌(つちのえいぬ)の、戊(つちのえ)は、植物の成長が絶頂期にあるという意味があり、戌(いぬ)は、元は「滅」で、草木が枯れる状態という意味がありますから、これらも合わせて、2018年の成年の運氣や兆候を考えると「2017年に燃え尽きた豊かさや幸せの灰の中から、新たに芽生えた新たな意味や価値が2018年に、グッと成長すること」を示しています。ただし、この芽吹(めぶ)きが上手くいかなかったり、中途半端に過去にとらわれたりこだわったりしていると、それが自分の足を引っ張り、よくない結果になりそうです。つまり、前向きに地道な努力を重ねることが出来るかどうかで、成長するか、枯れてしまうか、この2018年の成年は、運氣が大きく変わるんですね。(プラス思考・ポジティブ思考で！)

枯れずに成長する、良い一年にするために、2018年は過去の失敗にクヨクヨせず、成功にもとら

われず、前向きに、新しい目標に向かって努力することを、心がけたいですね。

来年、プラス思考・ポジティブ思考でいられるように、「生きるヒント」を紹介します。

「よかったね」

失敗したり、つらい目にあった時、自分に「よかったね」と、そっとささやいてみませんか。「よかったね」とは、失敗や困難をそのまま喜んで受け止めようという、勇気ある言葉です。

問題にぶつかったとき、私たちはつい「まいったな」と弱音を吐き、頭を抱えてしまいがちです。しかし、それでは本当にまいてしまいます。問題解決に向けての正しい対応もとれません。

失敗や困難が起きるのは、それなりに意味があります。「近頃いい気になっていた」とか、「仕事が雑になっていた」、あるいは「踏むべき手順や報告すべきことを怠っていた」・・・ということかもしれません。

「よかったね」とは、それらに気づかせてくれる合言葉とも言えるでしょう。

そしてまた、「よかった」と言い続けることで、自分の中に勇気が生まれ、元気も出てきます。言葉には力があります。言ったとおりの世界をつくり出すのもまた、言葉の力なのです。

☆新生徒会役員決定  
◇生徒会長 川村 千華 ◇副会長 須貝 蓮太  
◇副会長 佐藤 奈尚 ◇書記長 田島 菜古都

祝 表 彰

○第48回県ジュニア美術展

◇特賞	渡辺 豹牙(1-1)		
◇奨励賞	徳富 優果(1-2)	長野 十磨(1-2)	近 桃羽(1-3)
	松田 琉奈(2-1)	松本 菜々(2-1)	坂上 奈央(2-2)
	坂上健太郎(2-3)	須貝 蓮太(2-3)	宗像 桃香(2-3)
	伊藤 朋香(3-1)	木村 実由(3-1)	須貝隆之介(3-2)
	菅原 初花(3-3)		



渡辺 豹牙さんの作品

○吹奏楽部 第41回新潟県アンサンブルコンテスト中学校の部



<12/9(土) 柏崎市文化会館>

◇金賞受賞 管楽八重奏 曲名:「二つのバガテル」  
◇銀賞受賞 金管打楽器八重奏 曲名:「果てない空への冒険」

○野球部 平成29年度村上市岩船郡中学校新人野球大会 <10/14(土)・15(日) 神林球場>

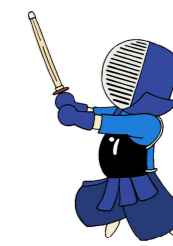
※荒川・関川・神納中学校 3校の合同チームで参加



◇優勝 1回戦 対 岩船中 7-0 (5回コールド)  
準決勝 対 村上第一中 7-0 (5回コールド)  
決勝 対 朝日・山北合同チーム 11-1 (4回コールド)

○剣道部 第36回聖籠町親善剣道大会 <12月3日(日) 聖籠町>

◇第3位 個人戦 中学生女子の部 佐藤 妙 (1-1)





○ソフトテニス部 第17回都市小・中学生選抜ソフトテニス研修大会

〈11月26日(日)村上市体育館〉

◇第2位 遠藤 瑞穂(2-2)・真保 明音(2-2)ペア



○バドミントン部 第53回村上市民バドミントン大会

〈12月3日(日)村上東中体育館〉

◇中学生ダブルス 準優勝 斎藤 愛奈(2-2)・渡邊まつり(2-1)組

○漢字検定合格者

◇準二級 中東 陽和(3-1)



○平成29年度国際理解教育プレゼンテーションコンテスト〈12月16日(土)朱鷺メッセ〉

◇中学生部門 最優秀賞

荒川中学校：ファッションヒーローズ

【メンバー】上野 涼花(2-3) 大嶋 夕稀(2-3) 川村 千華(2-3)

佐藤 奈尚(2-3) 山田菜々子(2-3)

発表テーマ「本当にCoolなファッションはこれだ!!」

◇中学生部門 優秀賞

荒川中学校：スマイル100均

【メンバー】須貝 一(2-1) 佐藤 圭(2-2) 土田 一輝(2-2)

羽田 雄翔(2-2)

発表テーマ「どうなっている、100均?」

☆荒川中学校 研究推進委員会の取組が文部科学省で表彰されます。

新潟県優秀教職員表彰制度の組織部門で当校「研究推進委員会」が学校教育の発展に功績が認められたとして、新潟県教育委員会から10月26日(木)に県庁で表彰されました。今度はそれが文部科学省で表彰されることに決まりました。(H30年1月15日(月)会場：東京大学 安田講堂)

平成22年4月に学力向上を目指し「荒川4段階方式(1:ねらい及び課題の提示、2:自力解決の場、3:交流学习の場、4:学習の定着を確認する場)」という名称で授業改善に取り組み始めました。この授業改善体制が定着し、全国学力テストやNRT(標準学力検査)等で全国平均を上回ることができるなど、着実に学力向上の成果を実現しました。また、小・中連携で一貫した学習指導が可能となるよう「学習の手引き」を作成し、全児童・生徒に配布したり、「家庭学習の習慣化」を目指し、「家庭学習の指導計画」を具体的に提示したりしました。

このような取組が学校教育の発展に尽力し、その功績が認められ、表彰されることになりました。

☆3学期の主な予定

1月	9(火)	3学期始業式	3月	7(水)	公立一般入試
	18(木)	漢字検定③		8(木)	公立学校独自検査
	19(金)	英語検定③		9(金)	第71回卒業証書授与式
	23(火)	新入生入学説明会		12(月)~14(水)	2年生修学旅行(関東方面)
2月	1/30(火)~1(木)	3年進学保護者会	13(火)	公立合格発表	
	2(金)	生徒総会	22(木)	公立2次入試	
	5(月)・6(火)	第4回定期テスト	23(金)	3学期終業式・2次発表	
	13(火)	公立特色化選抜面接	26(月)	離任式	
	19(月)	生徒朝会(三送会)	29(木)	辞令交付式	



荒川中  
だより

青い雲

村上市立荒川中学校  
平成29年度 第9号  
平成29年12月22日発行  
Tel. 0254-62-3251



教育目標：「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」

目指す学校像：「笑顔とハートのある学校」(ハート=熱いハート、温かいハート、柔らかいハート)

「もう一人の自分を育てよう!」(2学期終業式講話より)

「さて、この少女は誰でしょう?(右写真)。「アンネの日記」を書いたアンネ・フランク という少女ですね。皆さんの中には既にこの本を読んだことのある人もいるでしょう。

では次に、この人は誰でしょう?(右下の写真) ヒント、刀を2本持っていますね。二刀流と言えば?そう、宮本武蔵です。



生きた時代は違いますが、この二人には、ある共通したことがあるのです。それは、**自分の中に「もう一人の自分」を育てたこと**なのです。

アンネ・フランクは、「もう一人の自分」という友達を育てた典型的な人です。彼女は、ポーランド系ユダヤ人の少女で、第2次世界大戦中、ナチスドイツによるユダヤ人迫害を逃れて、両親と姉の四人でアムステルダムの隠れ部屋に他の人達と一緒に隠れ住んでいました。しかし、ナチスドイツが敗戦に伴うユダヤ人開放が間近に迫った時に、ナチスに隠れ部屋に踏み込まれ、捕らえられました。そして、収容所に送られ、自由の身になることなく、ベルゲン・ベルゼンという収容所でチフスにかかって亡くなってしまいました。皆さんと同じくらいの15歳という年齢でした。収容所が英軍の手によって解放されるわずか1ヶ月前のことでした。

その不自由で重苦しい隠れ部屋での毎日の生活をもう一人の自分の「キティ」に語りかける、手紙を書くという形式で日記を書いていました。1942年6月12日の日記には、「あなたになら、これまで誰にも打ち明けられなかったことを、何もかもお話しできそうです。どうか私のために、大きな心の支えと慰(なぐさ)めになってくださいね。」とありました。



続いて、宮本武蔵。この人は、江戸時代初期の有名な剣術家です。12歳で「剣で身を立てたい」と故郷を離れ、30歳になるまで60回も戦い、1度も負けたことがなかったそうです。有名な戦いは、佐々木小次郎との「巖流島の決闘」です。そんな腕前をもつ武蔵でしたが、なかなか勝つことができず戦い続けた敵がいたそうです。それが「心の中の敵」です。「心の中の敵」は、姿、形が見えず、正体がかめません。それどころか知らず知らずのうちに、「心の中の敵」に味方をしてしまっているのです。苦しい修行や毎日の稽古など、鍛錬に励む一方、休みたい・怠けたい心もあったのでしょ。そこで武蔵は、「心の中の敵」に勝つために、自分の心の中に「もう一人の頑固な自分」を育て、住みつかせました。自分を厳しく監視させ、激励させることが「心の中の敵」に勝利する秘訣であると言っています。